

1	審議会名	第2回上田市スポーツ推進審議会
2	日 時	平成26年3月18日 午後7時00分から午後9時00分まで
3	会 場	教育委員会やぐら下庁舎2階会議室
4	出席者	犬飼会長、小林副会長、石川委員、野口委員、松本委員、依田委員、渡辺委員
5	市側出席者	教育次長、スポーツ推進課長、真田地域教育事務所長、武石地域教育事務所長 スポーツ施設係長、スポーツ推進係長、スポーツ推進係
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	26年3月26日

## 協 議 事 項 等

- 1 開会（スポーツ推進課長）
- 2 教育次長あいさつ
- 3 副会長あいさつ
- 4 議事
  - (1) 平成25年度上田市スポーツ推進事業について
  - (2) 平成26年度上田市スポーツ推進事業について

(副会長)平成25年度上田スポーツ推進事業の進捗状況について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)平成25年度進捗状況についての説明

(副会長)事務局より説明があったが1年を通してのご意見をいただきたい。

(委員)「魅力あるイベント」の部分で、上田古戦場ハーフマラソン、爆水ランを今年度視察した。予算、参加者、ボランティア等非常に規模が大きい中でうまく運営されていると感じた。古戦場ハーフマラソンについてはこれ以上の人数集客に拘らなくてもいいのではないかと。スポーツ実施率については、昨年度の県の調査では約48パーセントであった数字が今年度は51.8パーセントという結果であった。ここ数年で初めて50パーセントを上回った状況。人数も大事だがこのようなことも踏まえ、是非、中身の充実を図られたい。

スポーツ推進委員がボランティアとして大会を支え1人何役もこなしていた。地域の方が携わるということは素晴らしいと感じた。

来年度は、大会運営のなかで総合型地域スポーツクラブの方との連携を検討されたい。またクラブのPRの場としても活用されたい。

ラグビーワールドカップ合宿の誘致について、県でも支援について前向きに考えている。できる限り先手必勝となるよう相互での情報交換を図られたい。

(委員)ラグビーワールドカップの合宿地誘致の関係では、5月の会議、10月に合宿地の選定という流れになっている。菅平の現状について、立ち上がり少し遅く他所と比較し出遅れている印象を受ける。しかしながらネームバリューもあるおかげで協会からは念頭に置いていただいている。

文科省では、3月にオリンピックの7人制の関係でナショナルトレーニングセンターの設置の公募が行われ菅平も応募したが、残念な結果となった。(埼玉県熊谷市に決定となった。)

施設の関係については整備も必要となってくる。

現在、東御市等も含め広域的に動いている部分もある。その中で上田市では何ができるのか早めに検討していく必要がある。

(委員)今年の古戦場ハーフマラソンは人数も増えスタッフも大変であった。選手がスタートした後はゴール対応の準備とスケジュールが時間で決まっていた。

荷物預り所を担当したが、従来の課題について便宜を図っていただき効率よく運営できた。参加者には満足していただいたと思う。

(委員)何らかの形で関わりたいということで、先日開催した上田市少年・少女サッカー大会の運営に高校生が携わらせていただいた。

活動を通じて高校生たちも地域貢献できる貴重な経験の場として実感していたようであった。  
今後も競技力向上だけでなく、このようなボランティア活動の場を積極的に意識して活用していきたい。

(委員) 体育施設の休場日利用については、自然運動公園の体育館ビーチボールバレー等を実施しているとのことだが、大学としても近隣施設でもあることから連携できる部分があるように感じた。

会議の場で話を聞き、協力できた場面があると認識することが多い。早目に情報として提供いただければ協力できることが多くあるように感じる。

立科町のマラソン大会で 50 名の学生ボランティアを集めた経緯もあるので、地元でも是非活用していただきたい。

文科省のトップアスリート事業に個人として関わり、さなだスポーツクラブで事業を行っているが、定期的に大学生を連れて一緒に活動している。

子どもたちは大学生との関りを非常に楽しみにしている。

是非、大学生の活用についてもご検討いただきたい。

うえだスポーツプレスの効果は中学生全家庭に配布されることもあり非常に大きく感じる。

是非、継続して発信、PR 活動をしていただきたい。

(副会長) 古戦場ハーフマラソンについては、規模的には 3,000 人を限度にというのが現状である。それ以上にするにはどうすればよいのか今後の課題である。

スポーツナビについてはもう少し考えたほうがよい。40 数名の参加ではもったいない。

実施率含め今年度の進捗状況としてはいい方向に向かっているように感じる。

体育協会としても、スポーツ推進課と 1 年間連携し進んでいるので来年度もいい方向に行ければと考えている。

(副会長) 議事(2)平成 26 年度上田市スポーツ推進事業について事務局より説明をお願いしたい。これからの議事進行は会長をお願いしたい。

(委員)「魅力ある事業の開催、開催」ということで、パラリンピックが開催されたばかりであるが、是非、障害者スポーツという点についてご配慮いただきたい。誰もが多様なニーズという中に障害者の視点というのが大事になってくる。

実例として、プールに入るのに自分が住んでいる市町村で入ることができず他市町村まで足を運ばなければならないということがある。何かあったとき責任が取れないという理由とのこと。

古戦場ハーフマラソンでは視覚障害者が伴奏者を伴って走っている姿も拝見したが、マラソンだけでなく障害者の方も健常者の方も参加できるよう配慮してほしい。

「市民のスポーツ実施率向上」ということで、独自で毎年検証することは難しい。県で実施している体力測定の一環で調査にしているので参考にされたい。

子どもの体力向上について、全国的に中学生女子が特に低下傾向にある。中学生になってからというよりは、それ以前の段階が重要だと思うので是非、充実発展をお願いしたい。

JFA の夢の教室については、引き続き有効活用されたい。

(事務局) 障害者スポーツの関係では、パラリンピックに上田市出身の山崎選手が出場したが、それまではどちらかという福祉課の関係という認識もあった。山崎選手の出場を 1 つのきっかけとして、障害者スポーツも含めてスポーツ推進を図ってまいりたい。

(副会長) 実施率の向上と関係する点で、体育施設の休場日利用で市民健康体力づくりを実施している。平成 25 年度からは従来の上田城跡公園に加え、自然運動公園でも実施し、千曲川を挟んで右岸、左岸両地域で開催できるようになった。平成 26 年度以降は丸子、真田、武石の各地域でも開催し、全地域、全市民に広げていきたいと考えている。

(会長) 年間多くの事業を実施しているので、既存のイベントのなかで実施率等の調査もでき得るのではないかと。

障害者スポーツについては、障害の知識が分からないまま遠慮してしまいがちだが、積極的に関っていくなかで障害者スポーツの理解を深めていければと考えている。県内にも数箇所障害者スポーツの拠点があり、指導員の派遣も可能である。指導者研修等で活用されたい。

(会長) ここのプロジェクト「夢の教室」について実施してみてもの反応はいかがか。

(事務局) テレビで見ている人と直に一緒にスポーツをするなり、話をするなかで、子どもたちの様子や反応をうかがいかなりいい手応えを感じている。

- (会長) その部分について継続してほしい。  
子どもの体力低下問題は中学女子が顕著ということだが、中学に入ってからでは遅い。子どもたちが地域で動き回れる環境づくり・雰囲気づくりが必要。  
スポーツナビについて、スポーツに距離感を感じている人にスポーツという冠をつけても距離感が埋まらないのではという印象がある。  
違う働きかけやアプローチがあってもいいのではないかと思う。  
気軽にできるスポーツをスポーツと言わず市民に提案でき良いアイデアがあればほしい。
- (委員) 総合型地域スポーツクラブのオヤジ改造倶楽部でも活動しているが、男女ペアで社交ダンスを行ったり、「エアロびっくり」といというネーミングでエアロピクスのような運動を取り組んでいる。ユニークな事業を実施している。  
スポーツというよりは、みんなで楽しもうという視点で実施している。
- (会長) スポーツプレスについては、非常によい取り組みで全国的にも誇れるものだと思う。その中でスポーツを広く捉えた記事やコーナーを設け呼びかけていくことも有効な手段ではないか。  
世論調査等によると、運動をする理由では、健康づくりと仲間づくりが上位となる。結果スポーツにつながったとしても、健康づくりや仲間づくり、社会参加等もキーワードとしても考えてみてはいかがか。
- (副会長) 菅平というすばらしい環境があるので、夏はラグビー、冬はスキーといったように菅平を優先的に生かせるような取り組みも有効ではないか。  
子どもの体力低下と関連して、少年団との関わりが現在、総合型との関連でうまくいかない部分が出てきた。  
少年団は自分の競技だけに特化してしまいがちである。年1回全ての少年団を一同に会し運動会形式の交流会を開催しているが、今年からその一部に体力測定を導入した。その体力測定の結果を参考に各少年団で活動してもらうことが目的である。  
市民健康体力づくりの関係では健康推進課と連携し事業を展開している。  
指導者の養成の点では、スポーツ推進課と協力し講習会、講演会を今まで以上に数を増やして開催していきたい。
- (委員) スポーツプレスの取り上げ方として中学生の部活動を掲載している点が良い。カラーで取り上げピックアップしていることから保護者からも評判が良い。部活動の加入率にもつながっていくのではないかと個人的には思っている。  
丸子地域のジュニアスケート教室が長野市で開催されているがどのような理由か。施設の有効活用という点では市民の森という選択肢もあるのでは。
- (事務局) 丸子地域の特徴ある体育事業ということで当時の体育指導員含め検討した。その中でオリンピックの開催されたエムウェーブを会場として子どもたちにスケートをやってもらいたいという発想から実施し、評判もよく定着している現状である。
- (委員) 長野県スキー週間というのを何年もの間、菅平で受けていない。地域で大きなイベントを開催することは次世代に多くのものを残せると思う。  
菅平では今年から健康と食をテーマとした取り組みも実施している。
- (委員) 体育施設の有効活用という点で、稼働率を上げるためにも夏の暑さ、冬の寒さを軽減できる対策を講じてもらいたい。
- (会長) 施設整備の関係について、検討し始めただけではなく、何年後にはどの程度までという目標を小刻みに作りながら年度ごとに振り返り具体化を図っていただきたい。

## 5 閉会（スポーツ推進課長）